

資料

「生涯健康とスポーツ」の実技に関するアンケート調査（第2報） —学部別集計の結果から—

A questionnaire study of practice in health and sports (II)

山本 裕二* 竹之内 隆志*
石田 浩司* 押田 芳治*
近藤 孝晴* 中島 豊雄* 宮村 實晴*

Yuji YAMAMOTO*, Takashi TAKENOUCHI*
Koji ISHIDA*, Yoshiharu OSHIDA*
Takaharu KONDO*, Toyoo NAKASHIMA*, Miharu MIYAMURA*

The four-year consecutive education program at Nagoya University was started in 1994. According to this new educational system, the subject of health and physical education was designated among the theme-oriented subjects as "lifelong health and sports". In the previous study, a questionnaire inquiry was conducted for all students of our university in order to grasp the present situation of practice education from the view points of 1) students' health and physical fitness, 2) students' sports activity and 3) opinions and demands made by the students concerning the school, respectively. However, since students in the departments of law and economics were not included in the previous study, we have included them in the present study. The data obtained in the previous and present studies were analyzed for developing, improving, and planning of practice education for "lifelong health and sports".

Results obtained in the present study were indicated in several tables and the main results were taken into consideration. Especially, 4 units of "lifelong health and sports" were determined to be an indispensable condition for graduation in all students except for the department of law in our university. Almost all of the law students who selected practice courses such as badminton, volleyball, tennis and golf, seemed to be satisfied with the quality of the instruction and facilities available. However, it will be necessary to investigate in greater detail the opinions and preferences not only of selected students of law, but also the law students who did not take part in the practice courses.

I. 調査の目的

名古屋大学は、平成6年4月から『四年一貫教育』に移行したが²⁾、これに伴って総合保健体育科学センターでは教務委員会を中心として、『生涯健康とスポーツ』の実技に関する学生アンケートを実施し、その結果を報告した³⁾。

『生涯健康とスポーツ』に関する教育の改善と充実をはかるためには、この種の調査から得られる資料が毎年蓄積されることが重要であることはいうまでもない。今回は、先の報告では3

期間の実技履修が終了していないために調査しなかった法学部と経済学部の2学部を加え、全学部の資料をもとに、学部別に集計した結果を報告する。項目間のクロス集計や男女別の分析などは行っていないが、それらは先の報告で述べているので参照されたい。

II. 調査の方法

1. 調査項目

『生涯健康とスポーツ』実技の授業計画・改

* 名古屋大学総合保健体育科学センター

* Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University

善に必要な基礎的資料をうるためにには、まず

(1) 学生の健康と体力の現状、(2) 学生のスポーツ活動の現状および(3) 学生の受講状況や授業に対する意見、要望などをそれぞれ把握することが必要である。そこで今回のアンケート調査においては、調査項目をA(今期受講した実技について)、B(これまで受講した実技全般について)、C(健康と運動やスポーツに関して)、D(受講者自身について)およびE(授業全般に関する意見、要望、感想などについて)に大別した。なお実技授業時間内でアンケート調査を行うことから、受講学生ができるだけ回答しやすい質問項目とした。

2. 調査対象

調査の対象としたのは、四年一貫教育へ移行した後、基本主題科目「生涯健康とスポーツ」の実技3単位を履修し終えた全学部の2年生全員である。調査対象者の内訳を表1に示した。

3. 調査時期

法学部と経済学部以外の学部については1995年7月10日から7月21日の間の、また法学部と経済学部については1996年1月19日から2月1日までの実技の授業時間に授業担当専任教官および非常勤講師の協力を得て、授業時間の一部をさいて調査を実施した。

結 果

1. 学生の自己評価からみた健康・体力の現状と運動の実施状況

(1) 健康・体力への自己評価(表2)

全体としては、54.8%の者が現在の健康状態を「非常に健康」、「やや健康」と答え、25%の者が「不健康」、「あまり健康でない」と答えしており、4人に1人は現在あまり健康でないと考えている。特に、情文学部や理学部では全体の平均よりも健康でないと考えている者が多い。健康状態への満足度が高いのは文・医・法・農学部などで、逆に不満の高いのは経済・情文・理・工学部などで、約40%の者が現在の健康状態に満足していない。これは前回の報告でみた男子の方が健康状態をよくないと考

表1 調査対象となった学部別人数

学部	人数	%
文学部	127	7.3
教育学部	64	3.7
経済学部	170	9.8
法学部	97	5.6
情報文化学部	81	4.7
理学部	224	12.9
医学部	84	4.8
工学部	722	41.7
農学部	163	9.4
全体	1732	100

え、また満足もしていないことから考えると、学部内の男女比を反映したものとも思われる。

現在の体力に関しては、さらに自己評価が低く、医学部を除くほとんどの学部で「低い」か「やや低い」とする学生が50%を越え、特に理学部では63.7%の者が低い方へ自己評価をしている。さらに、体力への不満感を持っている学生は60%(医学部)から70%(文学部)と非常に多い。

現在の運動能力への自信については、全体として「ある」と「ややある」と答えるものが30%未満であり、多くのものが運動能力の低さを感じている。文・情文・理学部では、20%未満と低く、一方自信が「ない」、「ややない」と答えるものが50%を超えており、他学部と比較して「自信のない」者が多い。逆に、経済学部と医学部では、比較的「自信のある」者が30%近くと多く、「自信のない」者は40%程度と他学部と比較して少ない割合となっている。

運動自体の好嫌を問うと、7割以上のものが好きだと答え、特に経済学部では80%を超える者が好きだと答えているのが特徴的である。

(2) 運動実施状況(表3・4)

実技授業以外に運動を実施していないものが、全体では半数近くおり、特に情文学部では、60%を超えるものが実技以外に日常生活の中で運動はしていない。最もよく運動を実施しているのは医学部の学生(78.6%)で、農学部や工

実技アンケート（第2報）

表2 健康・運動に対する自己評価

自己評価の観点	文	教育	経済	法	情文	理	医	工	農	計
現在の健康状態は										
不健康	7.9	1.6	6.5	7.2	7.4	7.2	7.1	5.4	7.4	6.3
あまり健康でない	13.5	23.4	16.5	18.6	27.2	23.8	11.9	19.2	12.9	18.7
どちらともいえない	15.1	21.9	15.9	13.4	17.3	20.2	19.0	22.0	18.4	19.5
やや健康	41.3	29.7	40.0	30.9	27.2	29.1	28.6	35.6	39.9	34.8
非常に健康	22.2	23.4	21.2	29.9	21.0	19.7	33.3	17.7	21.5	20.8
現在の健康状態への満足度は										
不満足	11.9	6.3	10.6	10.3	8.6	13.9	7.1	10.0	11.0	10.5
やや不満	19.8	26.6	27.6	22.7	29.6	23.8	23.8	26.8	23.3	25.4
どちらともいえない	14.3	20.3	18.2	16.5	17.3	20.6	15.5	21.5	16.0	19.2
やや満足	38.1	29.7	28.2	22.7	24.7	26.0	29.8	25.0	30.1	27.1
満足	15.9	17.2	15.3	27.8	19.8	15.7	23.8	16.7	19.6	17.8
現在の体力レベルは										
かなり低い	22.2	20.3	14.2	17.5	12.3	26.0	16.7	19.4	17.2	19.2
やや低い	33.3	25.0	34.9	32.0	42.0	37.7	21.4	35.7	32.5	34.4
普通	37.3	43.8	32.5	34.0	37.0	25.6	39.3	30.3	33.1	32.1
やや高い	4.8	10.9	13.0	15.5	4.9	8.1	16.7	12.0	16.6	11.5
非常に高い	2.4	0.0	5.3	1.0	3.7	2.7	6.0	2.6	0.6	2.7
現在の体力レベルに対する満足度は										
不満足	31.7	26.6	26.5	21.6	21.0	35.0	19.0	30.1	25.2	28.5
やや不満	41.3	32.8	40.6	49.5	50.6	37.2	39.3	39.1	39.9	40.1
どちらともいえない	15.9	26.6	15.9	14.4	13.6	14.8	19.0	18.1	19.0	17.3
やや満足	7.1	14.1	12.9	9.3	9.9	8.5	19.0	8.9	11.7	10.1
満足	4.0	0.0	4.1	5.2	4.9	4.5	3.6	3.8	4.3	3.9
健康問題への関心は										
ない	2.4	0.0	6.5	4.1	7.4	6.7	8.3	4.7	3.1	4.9
あまりない	11.1	10.9	10.6	9.3	14.8	11.2	14.3	10.7	6.1	10.7
普通	32.5	29.7	29.4	32.0	25.9	23.8	29.8	32.2	29.4	30.1
ややある	31.0	39.1	34.7	36.1	39.5	34.5	29.8	37.1	38.0	35.9
ある	23.0	20.3	18.8	18.6	12.3	23.8	17.9	15.2	23.3	18.4
現在の運動能力に対する自信は										
ない	28.6	26.6	14.8	12.4	14.8	23.3	21.4	17.4	17.8	18.9
あまりない	31.0	25.0	21.3	30.9	33.3	30.9	19.0	28.7	31.3	28.4
普通	26.2	26.6	36.1	32.0	35.8	28.3	29.8	30.1	29.4	30.3
ややある	11.1	20.3	18.3	13.4	12.3	12.6	20.2	16.0	18.4	15.7
ある	3.2	1.6	9.5	11.3	3.7	4.9	9.5	7.7	3.1	6.6
運動は好きですか										
嫌い	2.4	7.8	4.1	2.1	1.2	2.7	1.2	2.8	3.1	2.9
どちらかといえば嫌い	13.4	4.7	2.4	8.2	7.4	10.7	9.5	6.0	1.8	6.7
どちらともいえない	17.3	23.4	11.2	18.6	22.2	18.8	17.9	16.0	22.1	17.3
どちらかといえば好き	33.9	29.7	32.4	33.0	40.7	31.7	33.3	32.9	30.7	32.8
好き	33.1	34.4	50.0	38.1	28.4	36.2	38.1	42.4	42.3	40.3
計(人数)	127	64	170	97	81	224	84	721	163	1731

表3 中学・高校時代の運動経験と大学での運動部等への参加

	文	教育	経済	法	情文	理	医	工	農	計	
中学時は	運動部所属	63.0	73.4	82.4	79.4	86.4	78.1	72.3	84.7	74.1	79.8
	学外スポーツクラブ	1.6	0.0	0.6	2.1	3.7	0.9	2.4	1.8	2.5	1.7
	友達と	4.7	6.3	5.9	6.2	1.2	6.3	7.2	4.0	5.6	4.9
	授業以外はなし	30.7	20.3	11.2	12.4	8.6	14.7	18.1	9.5	17.9	13.6
高校時は	運動部所属	43.2	57.8	52.4	51.6	46.3	44.6	38.3	54.5	53.7	50.9
	学外スポーツクラブ	0.8	1.6	1.2	2.1	3.8	1.3	3.7	1.8	0.6	1.7
	友達と	13.6	9.4	19.6	17.9	11.3	21.0	19.8	14.5	14.2	15.8
	授業以外はなし	42.4	31.3	26.8	28.4	38.8	33.0	38.3	29.2	31.5	31.5
大学では	学内の運動部に所属	10.2	18.8	17.2	16.5	13.6	17.4	56.0	18.7	32.5	20.5
	学内の同好会に所属	24.4	21.9	23.1	26.8	17.3	14.7	19.0	25.9	22.7	22.9
	学外のクラブに所属	3.1	3.1	5.3	2.1	2.5	3.1	0.0	4.6	2.5	3.6
	いざれもなし	62.2	56.3	54.4	54.6	66.7	64.7	25.0	50.8	42.3	52.9
計(人数)		127	64	169	97	81	224	84	721	163	1730

表4 運動の実施状況

	文	教育	経済	法	情文	理	医	工	農	計	
大学で授業以外に	ほとんどしない	55.9	57.1	44.7	50.5	63.8	49.6	21.4	42.9	37.4	45.3
	1カ月に2~3回	10.2	7.9	19.4	12.4	6.3	17.0	4.8	11.9	8.0	12.1
	1週間に1回程度	17.3	15.9	12.4	17.5	8.8	10.7	11.9	15.9	15.3	14.5
	1週間に2回程度	3.9	6.3	8.2	5.2	5.0	8.0	23.8	11.1	11.0	9.7
	1週間に3日以上	12.6	12.7	15.3	14.4	16.3	14.7	38.1	18.1	28.2	18.4
	計(人数)	126	64	169	95	79	224	83	716	161	1717
卒業後定期的に運動を実施する	実施する	7.9	14.1	10.1	14.7	10.1	7.6	13.3	11.3	9.3	10.6
	たぶん実施する	31.0	21.9	37.3	30.5	17.7	24.6	39.8	29.1	36.6	29.9
	わからない	31.0	35.9	28.4	31.6	39.2	40.2	22.9	34.2	34.8	33.8
	たぶん実施しない	26.2	21.9	20.1	20.0	27.8	21.9	22.9	21.4	13.7	21.3
	実施しない	4.0	6.3	4.1	3.2	5.1	5.8	1.2	4.1	5.6	4.4
	計(人数)	126	64	169	95	79	224	83	716	161	1717

学部の学生も比較的よく運動しているようである。

また、卒業後定期的に運動を実施すると思う学生は、4割程度であり、各学部の現在の運動実施状況における特徴と似かよった傾向を示している。

2. 3期間の履修を終えての感想と今後への要望

(1) 履修した感想(表5)

3期間を通しての種目選択の希望がどの程度

実現したかについては、8割以上のものが第1希望だったとしている。「希望しないものであった」と回答した学生が6.5%いるが、この数値の意味するところは3期間のうち1回だけ希望しない種目であったということであるので、新カリキュラムにおいては、学生たちはほぼ希望した授業を受講できる体制になっていると考えてよい。少数ではあるが、希望しない授業を受講するケースがあるが、これはスポーツ種目が使用する施設の収容人数との関係上、全てが希

実技アンケート（第2報）

表5 3期間の履修の感想

	文	教育	経済	法	情文	理	医	工	農	計
希望実現の程度										
第1希望だった	82.8	82.2	91.6	96.8	88.7	87.9	86.5	84.6	91.2	87.0
第2希望だった	10.6	11.0	1.5	0.8	5.4	6.5	6.3	7.9	3.9	6.5
希望しないものであった	6.6	6.8	7.0	2.4	5.9	5.5	7.1	7.5	4.9	6.5
授業に対する満足度										
非常に満足	34.4	20.3	20.6	39.6	27.2	21.9	9.6	18.7	13.5	21.1
やや満足	46.4	64.1	60.6	51.0	50.6	57.1	65.1	55.0	62.6	56.3
どちらともいえない	13.6	14.1	11.2	4.2	14.8	13.8	15.7	18.0	17.2	15.2
やや不満足	4.0	1.6	6.5	3.1	4.9	4.9	3.6	6.6	5.5	5.5
非常に不満足	1.6	0.0	1.2	2.1	2.5	2.2	6.0	1.8	1.2	1.9
計(人数)	125	64	170	96	81	224	83	717	163	1723

望通りに選択できるようにすることは不可能であり、現行のカリキュラムではこの程度の希望しない授業の受講者が出るのはやむを得ないと考えている。

3期の授業に対する満足度については、満足したと答える割合が高いのは法・教育・経済・文・理・情文・農・医・工学部の順である。もっとも低い工学部ですら、74%の者が満足していると答えていることから、3期間を通しての実技授業についてはおおむね学生は満足していると考えてよい。特に選択制を導入した法学部では、受講した学生の満足度が他学部よりも高く(90%)なっていた。これは、受講者はほとんどが希望通りに受講し、それゆえ出席意欲も高く、施設や指導面でも少人数教育によるメリットを享受したためであると思われる。しかしながら、法学部生が3年次以降に開講を希望する種目のサッカーやバレー、ボルなどのチームスポーツは受講者数の関係で開講しにくく、さらに開講種目が少ないために選択の幅が狭くなっていることも事実である(表9参照)。また、全学生的健康状態の自己評価からも推察できるように、多くの学生は健康状態や体力面で不満を抱えているものが多く、法学部生の中にもこうした学生がいると思われるが、今回のアンケートでは実技授業を受講した学生のみから回答を得ているため、法学部内での受講しなかった学生の実態は把握できない。運動する機会を持つべきであると考えられる学生が実技授

業を受講せず、他にも運動する機会が減っていることは将来的に考えても検討する課題であるといえよう。

(2) 今後への要望(表6~9)

3期の授業の選択方法については、約60%の者が3期とも異なる種目を受講する現在の選択方法に肯定的である。しかしながら、法学部や医学部などの学生では、「場合によっては同じ種目を選択する」と答えたものが40%を超えており、法学部では、選択制による少人数教育の結果、同一種目の技術獲得に、より積極的になったものと考えられる。また医学部では、大学での運動部への所属者が多いが高校での運動部所属が少ないため(表2参照)、現在所属している運動部に関連した技術獲得を目指しているのではないかと推察される。また、「3期とも異なる種目を受講する」と答えたが多い情文学部(71.6%)では、現在の大学生活における運動実施が少ないためとか、また自分に適したスポーツ種目を見つけようとするため等々の理由から、こうした傾向になったのではないかと考えられる。

必修単位数については、「現状のままでよい」が約半数で、「現状よりも多い方がよい」とする必修拡大派と「現状よりも少ない方がよい」とする必修縮小派は学部によって若干異なる傾向を示している。必修拡大派が多い学部は農学部(35.6%)、経済学部(35.5%)、法学部(35.5%)、文学部(33.3%)などで、逆に必

表6 3期の授業の種目選択方法

	文	教育	経済	法	情文	理	医	工	農	計
3期とも異なる種目を受講する	56.0	65.6	55.0	53.6	71.6	58.6	52.4	65.1	58.6	61.1
3期とも同一の種目を受講する	5.6	4.7	8.9	6.2	1.2	5.0	7.3	3.9	4.3	4.9
場合によっては同じ種目を受講する	38.4	29.7	36.1	40.2	27.2	36.4	40.2	31.0	37.0	34.0
計(人数)	125	64	169	97	81	220	82	714	162	1714

表7 必修単位数の希望

	文	教育	経済	法	情文	理	医	工	農	計
現状のまま3単位でよい	46.3	67.2	48.5	52.7	50.6	48.2	56.1	52.0	50.9	51.4
現状の3単位よりも多いほうがよい	33.3	12.5	35.5	35.5	32.1	28.4	14.6	29.3	35.6	29.8
現状の3単位よりも少ないほうがよい	20.3	20.3	16.0	11.8	17.3	23.4	29.3	18.7	13.5	18.8
計(人数)	123	64	169	93	81	222	82	717	163	1714

表8 3年次以降の受講の意志

受講意志の程度	文	教育	経済	法	情文	理	医	工	農	計
授業を調整しても選択したい	63.5	76.2	75.1	79.4	72.8	71.0	61.4	73.2	73.6	72.3
	39.7	34.4	47.6	42.7	37.0	41.6	36.1	44.1	43.6	42.6
空き時間があれば選択したい	23.0	7.9	16.0	13.4	14.8	9.5	12.0	14.6	14.7	14.3
	7.1	3.1	4.8	4.2	2.5	4.5	7.2	4.3	6.1	4.8
選択したくない	13.5	15.9	8.9	7.2	12.3	19.5	26.5	12.1	11.7	13.4
	53.2	62.5	47.6	53.1	60.5	53.8	56.6	51.6	50.3	52.6
計(人数)	126	63	169	97	81	221	83	717	163	1720

各回答の□は卒業単位として認められる場合

■は卒業単位として認められない場合

表9 3年次以降の開講希望種目

	文	教育	経済	法	情文	理	医	工	農	計
ゴルフ	11.8	9.9	13.3	14.8	11.6	12.1	10.5	12.5	7.7	11.9
サッカー	6.8	5.7	10.9	10.4	5.6	9.7	11.3	11.9	7.4	10.1
ソフトボール	9.3	9.9	9.7	6.9	8.6	8.7	9.7	8.2	10.9	8.8
卓球	13.3	12.0	9.5	9.7	12.3	9.9	9.7	11.2	9.8	10.8
テニス	14.5	13.0	13.0	12.6	11.9	13.7	15.0	11.6	12.6	12.6
バスケットボール	9.3	9.9	8.0	9.4	9.3	10.3	8.9	9.5	7.7	9.2
バドミントン	12.8	17.2	10.9	13.8	13.4	13.2	9.7	12.0	13.2	12.5
バレーボール	6.0	8.9	8.8	7.9	9.0	7.7	4.9	7.3	10.4	7.8
野球	5.8	3.1	7.1	4.7	4.5	5.1	8.5	6.4	6.5	6.1
ウェイトトレーニング	4.0	5.2	3.8	3.8	6.3	3.5	5.7	4.6	7.0	4.7
トータル・フィットネス	4.3	4.2	2.9	3.8	5.6	2.8	3.6	3.4	3.3	3.5
その他	2.3	1.0	2.1	2.2	1.9	3.2	2.4	1.4	3.5	2.1
計(人数)	399	192	578	318	268	710	247	2400	570	5682

注) 5種目以内の複数回答

修縮小派が多い学部は医学部(29.3%)である。前回の報告でこの必修単位数の希望については授業に対する満足度との関連が指摘されているが、今回の学部別集計でもそうした影響が出ているものと思われる。ただ、医学部については「現状のままでよい」とする現状肯定派が56.1%と多いことから、拡大派は少ないが現在の必修単位に対してそれほど否定的だとは思われない。四年一貫教育に移行したことによって、鶴舞キャンパスからの移動などの問題もあり、必修単位数の縮小を望んでいるのかもしれない。

さらに、3年次以降の受講の意志について、卒業単位として認められる場合と認められないそれぞれの場合について問うと、認められる場合には「授業を調整してでも選択したい」と答えるものが72.3%に上るが、認められない場合には42.6%にとどまり、逆に「選択したくない」と答えるものが52.6%に上る。しかし経済学部、農学部、工学部などでは卒業単位として認められない場合にでも選択したいと考えるものが50%近くに上り、今後3年次以降の学生を対象とした実技授業の開講を検討していく必要がある。また、教育学部や情文学部では40%以下の者しか選択の意向がないことから、学部別に開講数等を検討していくことも必要である。

ま　と　め

以上アンケート調査の結果を学部別に集計し、今回は特徴的な点だけについて記述するにとどめた。特に唯一選択制を導入した法学部については、授業に対する満足度は高く、3年次以降の受講の意志も高いが、これは実際に選択した学生だけを対象としてアンケート調査を実施したことによると思われ、本調査の結果から直ちに選択制の是非について結論づけるのは不十分であろう。名古屋大学の学生は、他の調査資料からも明らかなように¹⁾、青年期の学生としての日常生活での身体活動量は決して十分とはいはず、基本主題科目としての『生涯健康とスポーツ』のねらいを実現するためには、最後の教育機会となる大学教育の中での健康教育・スポーツ教育の場を全ての学生に均等に与えていくことこそが重要であり、社会的な要請に応えられる学生を育てるという観点からもより一層、本学の『生涯健康とスポーツ』の教育方法や内容等の改善を継続していかなければならぬと考えている。

参 考 文 献

- 1) 中島豊雄(1991)「学生のスポーツ参加の現状—教養部一年生のアンケート調査から—」、健康への道、No. 49.
- 2) 名古屋大学四年一貫教育計画委員会(1995)「名古屋大学における授業アンケート調査報告書」、p. 14.
- 3) 山本裕二他(1996)「『生涯健康とスポーツ』の実技に関するアンケート調査」、総合保健体育科学、19-1, 71-84.

(1996年12月9日受付)

